

# NPO 塾

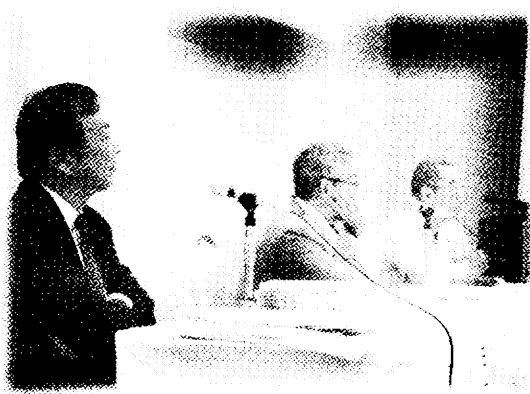
## リーダーが担う役割を再検証し、 更なる活動発展へと導くための勉強会



6月14日、当センターの通常総会に引き続き、東京のNPO法人、NPO事業サポートセンターとチャリティ・プラットフォームとの協働開催にて、地域のリーダー養成を目的とした「NPO塾 in長野」を開催した。

前段のパネル・ディスカッションでは、コーディネーターの田中尚輝NPO事業サポートセンター常務理事が「支援する側とそれを受ける側」をテーマに、パネラーの村上世彰チャリティ・プラットフォーム理事と当センターの高橋を交えて、それぞれがNPO活動を始めたきっかけや、活動資金を調達する際のこれまでの苦労などが語られた。折りしも「岩手・宮城内陸地震」のあった当日、村上理事からは災害支援に対する自身の考え方や、大規模災害が発生した際に直ぐに対応するため設立した「即応チーム」が既に現地向かったとの話がされた。

NPO法人チャリティ・プラットフォームは「NPOを支援するNPO」として日本における寄付文化の創造を目指して活動しており、災害発生時の支援や全国のNPOの情報収集、独自の助成事業を実施している。村上理事からは「支援を受けた側が活動の成果を寄付者に公開し、寄付者がそこで得た感動を世の中に伝えることで、大きな寄付の波が起きる」との意見が出された。



左から 田中尚輝氏、村上世彰氏、高橋卓志

クオーラ・今人、長野サマライズ・センター、フォレスト工房もくりの順でそれぞれの活動内容と将来的に取り組もうと考えている活動が発表され、その内容をもとに意見交換へと進み、参加者からは「賛同者の会費や寄付などから得られる活動資金では足りず、コツコツと助成金等を取って活動するのが精一杯」、「寄付者を求めているが探し方が見出せない」、「今まで以上に資金獲得に時間を費やしてまで新しい活動を始めようとはあまり考えていない」など、それぞれの立場からの意見が寄せられた。

今年度、長野県NPOセンターでは、リーダー育成ならびに後継者育成を視野に県内数ヶ所にて「NPO塾」を開催する予定です。中間支援団体として県内各地で活躍するみなさんと共に、日々の悩みや情報を共有することでおかしらのお役に立てればと考えております。

田中理事からは「NPOは個々の活動に埋没せず自らを鍛え、広く世の中を見通しながら全体として良くなる発想を持たないと社会は変わらない。そのための一つの方策として企業や行政、NPO同士のネットワークの活用が大切である」と訴えた。



県内外から参加者40名(26団体)